

はいき がわ
早岐川水系河川整備計画

平成 22 年 3 月

長 崎 県

早岐川水系河川整備計画

目 次

1 . 早岐川 ^{はいきがわ} 流域の概要.....	1
(1) 概 要	1
(2) 自然条件及び社会条件	1
(3) 自然環境及び利用状況	1
(4) 関連計画	2
2 . 早岐川の現状と課題.....	5
(1) 治水の現状と課題.....	5
(2) 利水の状況と課題.....	5
(3) 河川環境の現状と課題.....	5
3 . 計画対象区間	6
4 . 計画対象期間	6
5 . 河川整備計画の目標に関する事項	6
(1) 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項.....	6
(2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する 事項.....	6
(3) 河川環境の整備と保全に関する事項.....	6
6 . 河川整備の実施に関する事項	7
(1) 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工 事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要	7
(2) 河川の維持の目的、種類及び施行の場所	9
(3) 流域での取り組みにおける連携や情報の共有化に関する 事項.....	9

1. 早岐川流域の概要

(1) 概要

早岐川は長崎県佐世保市東部に位置し、標高670mの隠居岳などの山地を源とし、山間を南下した後にJR佐世保線を越えて早岐の市街地に入り、右支川陣の内川を合流した後、大きく湾曲しながら早岐瀬戸に注ぐ、幹川流路延長約3.0km、流域面積約4.3km²の二級河川です。

図1-1に早岐川水系流域概要図を示します。

(2) 自然条件及び社会条件

流域の気候は、温暖多雨な西海型気候に属し、平均気温は17程度、年平均降水量は1,900mm程度(佐世保測候所：平成10年～平成19年)となっています。

流域の地質は、下流部が礫・砂・粘土、中流部から上流部にかけては、砂岩・泥岩の互層で形成されています。また、最上流部や中流の一部で玄武岩がみられます。

流域の地形は、河口から上原水源地までの河川沿いに三角州性低地が見られ、その外側には小起伏低地が形成されています。それより上流は岩石台地となっています。

流域内の土地利用状況は、下流部に早岐駅を中心とする市街地が開け、下流部から中流部にかけては住宅地が密集しています。上流部は山腹を切り開いて水田とするなど土地の有効利用が行われています。また、早岐川の河口部は江戸時代からの埋め立てにより造成されたものです。

流域内の人口は、約10,000人で佐世保市人口の約4%を占めています。

早岐地区は歴史的背景が強くうかがえる地区であり、流域内の主な文化財、史跡としては、大念寺の鐘楼山門、多くの鍵型交差を有する平戸往還の石畳があると同時に、早岐瀬戸沿岸部では400年あまりの歴史をもつ早岐茶市が毎年開催されています。

また、早岐川が流入する早岐瀬戸は、佐世保湾と大村湾を結ぶ延長約7kmの狭小な海域となっており、早岐瀬戸北端部の観潮橋狭窄部では両湾の潮位差を調整する機能を持っています。しかしながら、早岐瀬戸の形状が中小河川と同じような状態で、洪水時は隣接する小森川の流水の影響を大きく受けます。

(3) 自然環境及び利用状況

早岐川の流域は、水田地帯を流れる上流部と市街地を貫流する下流部、及び住宅地に自然が残る中流部に分かれます。

早岐川の上流部は水田が広がり、川沿いの山付き部ではアラカシ群落や竹林

が分布し、河道内にはクズ群落などが見られます。また、山地部ではスギ、ヒノキ植林が広く分布しています。貴重な種では、エビネ（準絶滅危惧：環境省レッドリスト（以下 環という。）、オオイワヒトデ（絶滅危惧 A類：佐世保市レッドデータ（以下 佐という。）、ミズオオバコ（絶滅危惧 種：環）及びキクモ（準絶滅危惧：佐）が確認されています。魚類ではドンコやヨシノボリ、メダカ（絶滅危惧 類：環）、鳥類ではキセキレイ、カワセミ（準絶滅危惧：佐）、昆虫類ではウチワヤンマ（準絶滅危惧：佐）、爬虫類ではスッポン（情報不足：環）が確認されています。

早岐川の中流部は市街地に隣接しながら、山付き区間の樹林地が存在するなど良好な自然環境が残されています。樹林地はシイ、カシ萌芽林を主体にアラカシ等で構成されており、植生の横断的な連続性が保たれた特徴的な空間となっています。魚類ではカワムツ、トウヨシノボリなど、両生類ではカスミサンショウウオ（絶滅危惧 種：環）、鳥類ではゴイサギ、コサギなどのサギ類やカワセミ、セグロセキレイなどの多様な種が確認されています。

早岐川の下流部は感潮域があり、魚類ではボラ、クサフグなどが確認され、これらを捕食するサギ類の姿も見られます。

また、早岐川が注ぐ早岐瀬戸は多くの干潟が存在し、多様な鳥類が確認されています。

早岐川の河川利用は、水辺へ降りる場所が少ないためほとんどありませんが、下流部の早岐小学校では早岐川を総合学習の一環に取り入れ環境学習の場として活用しているとともに、管理用通路が通学路として利用されています。

早岐川は水質に係る公共用水域の類型指定を受けていませんが、早岐橋地点（河口から約0.3km）における平成19年度のBOD75%値は、6.9mg/lとなっています。

（4）関連計画

早岐川下流の地区では、佐世保市による「早岐駅周辺整備推進事業」のまちづくり計画が進められています。このため、市街地整備と一体となった、安全で快適な河川整備が重要となります。

第6次佐世保市総合計画では、「ひと・まち育む“キラッ都”佐世保～自然とともに市民の元気で輝くまち～」を将来像とし、この中で河川の整備については、災害に強いまちづくりを目指して、「安全な生活を守るまち」が基本目標に掲げられています。

佐世保市都市計画マスタープラン（1999～2018）では、施策展開の考え方として「やさしさと生きがいに満ちた生活・交流創造のまちづくり」が掲げられ、防災性の向上と的確な情報提供により、安心して暮らせるまちづくりを目指しています。

また、長崎県では基本理念を「豊かな地域力を活かし、自立・共生する長崎県づくり」とする長崎県長期総合計画（2001～2010）を策定しています。河川に関する政策としては、「地域を支え合う安全・安心な社会づくり」、「自然環境と人々が共生する社会づくり」を掲げ、安全で快適な生活環境づくりを目指しています。

この他、長崎県の都市計画区域マスタープランでは、「高次都市機能の集積により、県北地域、ひいては県土の発展を牽引する都市づくり」などを基本理念とし、早岐地区の市街地像としては、周辺住民の日常生活を支える生活交流の拠点として、魅力ある市街地の形成を図ることを目指しています。その中で、早岐川は安全で快適な暮らしを支える重要な役割を果たす河川として位置づけています。



図1-1 早岐川水系流域概要図

2. 早岐川の現状と課題

(1) 治水の現状と課題

早岐川では、川幅が狭く流下能力が低いため過去幾度となく洪水氾濫を起こしており、昭和42年7月や平成2年7月の洪水では、家屋の浸水被害や農地の冠水被害が発生しています。特に、平成2年7月の水害では、洪水と満潮が重なったため、早岐川下流部の広い範囲にわたって浸水被害が発生しました。

これらの水害を契機として、河岸の災害復旧を実施してきましたが、河岸の老朽化は激しく、また、河川沿いには家屋が連担しており、川幅も狭いま取り残されています。このため、地域住民より河川改修の早期着手が強く望まれており、早岐川水系の抜本的な治水対策が急務となっています。

(2) 利水の現状と課題

早岐川の河川水は、上流部の約6haの水田で利用されていますが、近年の渇水時において、農業用水の取水に大きな支障をきたすような渇水被害は発生していません。

(3) 河川環境の現状と課題

早岐川下流部では、市街地を貫流する都市河川であることから植生は乏しいですが、中流から上流にかけて、山付き部や水田地帯が見られ、自然豊かな河川環境となっており、多様な動植物が生息・生育しています。

利用の面では、管理用通路が通学路となっていますが、全体的に水辺へ近づくことが難しくなっています。

水質傾向については、近年の対策により水質は改善傾向にありますが、平成19年度のBOD75%値は6.9 mg/Lと、高い状況となっています。

3．計画対象区間

本計画の対象とする区間は、図6 - 3に示す早岐川の河口から二級河川上流端までの約2.5 kmとします。

4．計画対象期間

本計画の対象とする期間は、概ね30年間とします。

5．河川整備計画の目標に関する事項

(1) 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

早岐川は、想定氾濫区域内における人口・資産の状況等を考慮し、概ね100年に1度の規模の降雨により発生する流量の安全な流下を図ります。

また、計画規模を超える洪水等における被害を軽減するため、地域住民や関係機関との連携の強化、河川情報の共有化の推進に努めます。

(2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

近年、早岐川では地域住民の生活に著しく影響を与えた渇水実績はありません。しかし、今後も地域住民や佐世保市など関係機関との緊密な連携のもとに、現在の河川環境に配慮しつつ、適正な水利用を図ることにより、流水の正常な機能の維持に努めるとともに、引き続きデータの蓄積に努め、今後さらに検討を行います。

(3) 河川環境の整備と保全に関する事項

早岐川では治水、利水面との整合を図りつつ、現在ある砂州や瀬・淵、樹林地等を残すとともに、水辺と陸域との連続性を確保するなど、動植物の生息・生育環境の保全、復元に努めます。また、新川開削区間については、良好な河川環境の創出を目指します。さらに、親水性や歴史に配慮した河川空間の整備を図ります。

新川開削に伴う、旧河川の取扱については、地域住民の意見や関係機関と協議しながら有効的な利用を図ります。

6 . 河川整備の実施に関する事項

(1) 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

1) 河川工事の目的、種類及び施行の場所に関する事項

早岐川水系河川整備基本方針に位置づけられている河川の整備のうち、計画規模の降雨により発生する流量の安全な流下を図るため、河口から祝田橋下流までの河道整備を行います。その際、基準地点稗田橋での計画高水流量は、 $75 \text{ m}^3/\text{s}$ とします。

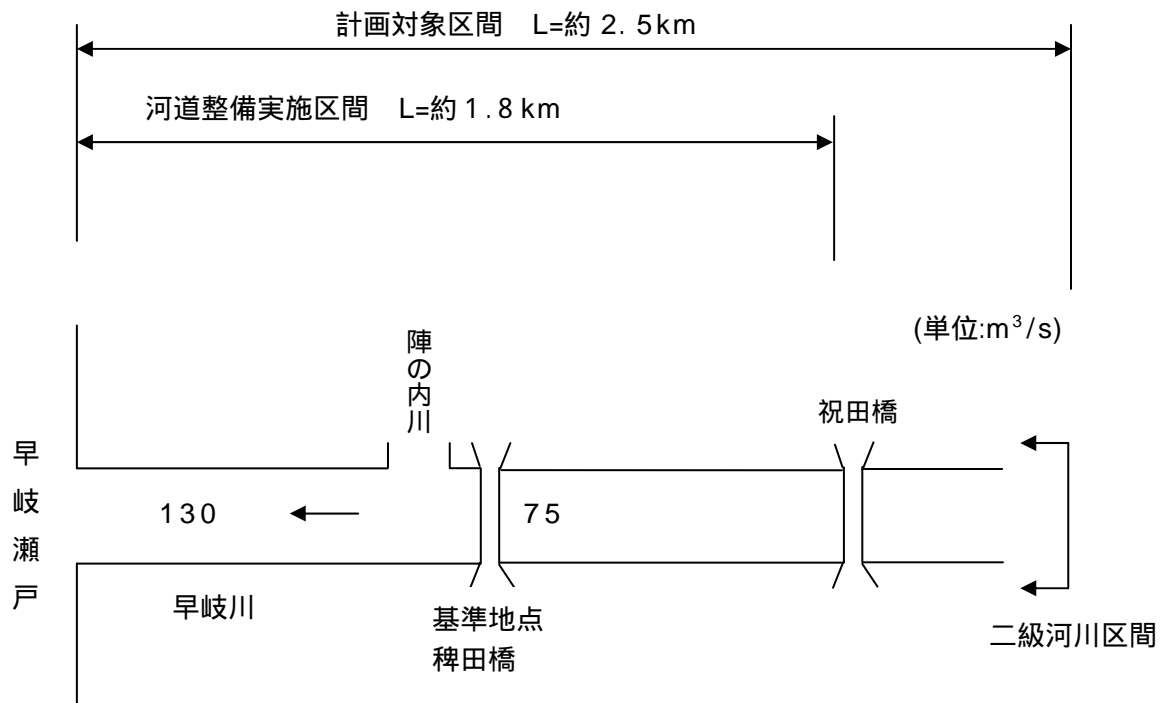


図 6-1 早岐川計画高水流量配分図

2) 当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

計画高水流量に対する流下能力を確保するため、河口から祝田橋下流までの約 1.8 km の区間について、新川開削、河道拡幅、築堤、河床掘削及び橋梁の架け替えによる河道の整備を行います。その際、植生が回復しやすい護岸工法の採用や、瀬や淵の形成に配慮した河床部の整備など、動植物の生息・生育環境に配慮するとともに、人が水辺に親しみやすいよう、河川空間の整備を行っていきます。

主要な地点における計画横断形状は、概ね下記のとおりとします。ただし、横断形状については、標準的なイメージを示したものであり、整備の実施においては現地状況等を調査し決定します。

稗田橋付近（河口より 0.7 km 付近）

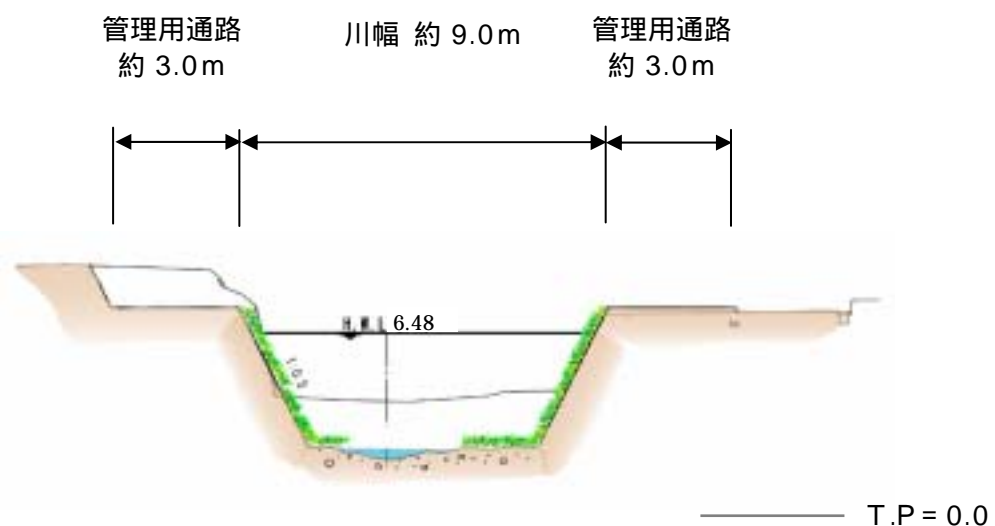


図 6-2 主要地点標準横断図

(2) 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

1) 河川の維持の目的

「災害の発生防止」、「河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持」及び「河川環境の整備と保全」の各観点から、河川の持つ各機能を十分に発揮させることを目的に河川の維持を行います。

2) 河川の維持の種類及び施行場所

護岸の維持・点検・補修

護岸については、亀裂・陥没等の異常がないかを確認し、異常が確認された場合には、必要に応じてその補修工事を実施します。

河積の確保

河道内の土砂の堆積状況等を確認し、必要に応じ堆積土砂の除去を行います。また、流水の阻害となる河道内の植生については、適正に管理します。なお、土砂除去及び植生管理にあたっては河川環境へ極力配慮します。

水質の改善と美しい景観の確保

市や地元住民と連携を図るとともに、美しい川づくりのため、ごみ投棄防止の働きかけを行うなど、地域住民の協力のもと水質の改善・美しい河川景観の確保に努めます。

(3) 流域での取り組みにおける連携や情報の共有化に関する事項

1) 流域での取り組みにおける連携の強化

早岐川をよりよい川とするには、地域住民と河川管理者が「川は地域共有の公共財産である」との認識のもと、連携して川を守り育てていくことが重要です。そこで、川の優れた価値を共有するための情報の発信や、河川清掃等の地域住民の自主的な活動に対する支援を行うなど、連携のための種々の方策を講じるように努めます。

2) 河川情報の共有化の推進

計画規模を超過する洪水や整備途上における施設能力以上の洪水等に関しては、洪水による被害を最小限に抑えるよう、関係機関と連携し警戒避難及び情報連絡体制の整備等のソフト対策に努めるとともに、ハザードマップ作成に向けた協力を行います。また平常時においても、ホームページ等を通じて河川に関する情報の発信及び共有化に努め、地域住民とのコミュニケーションの充実

を図っていきます。

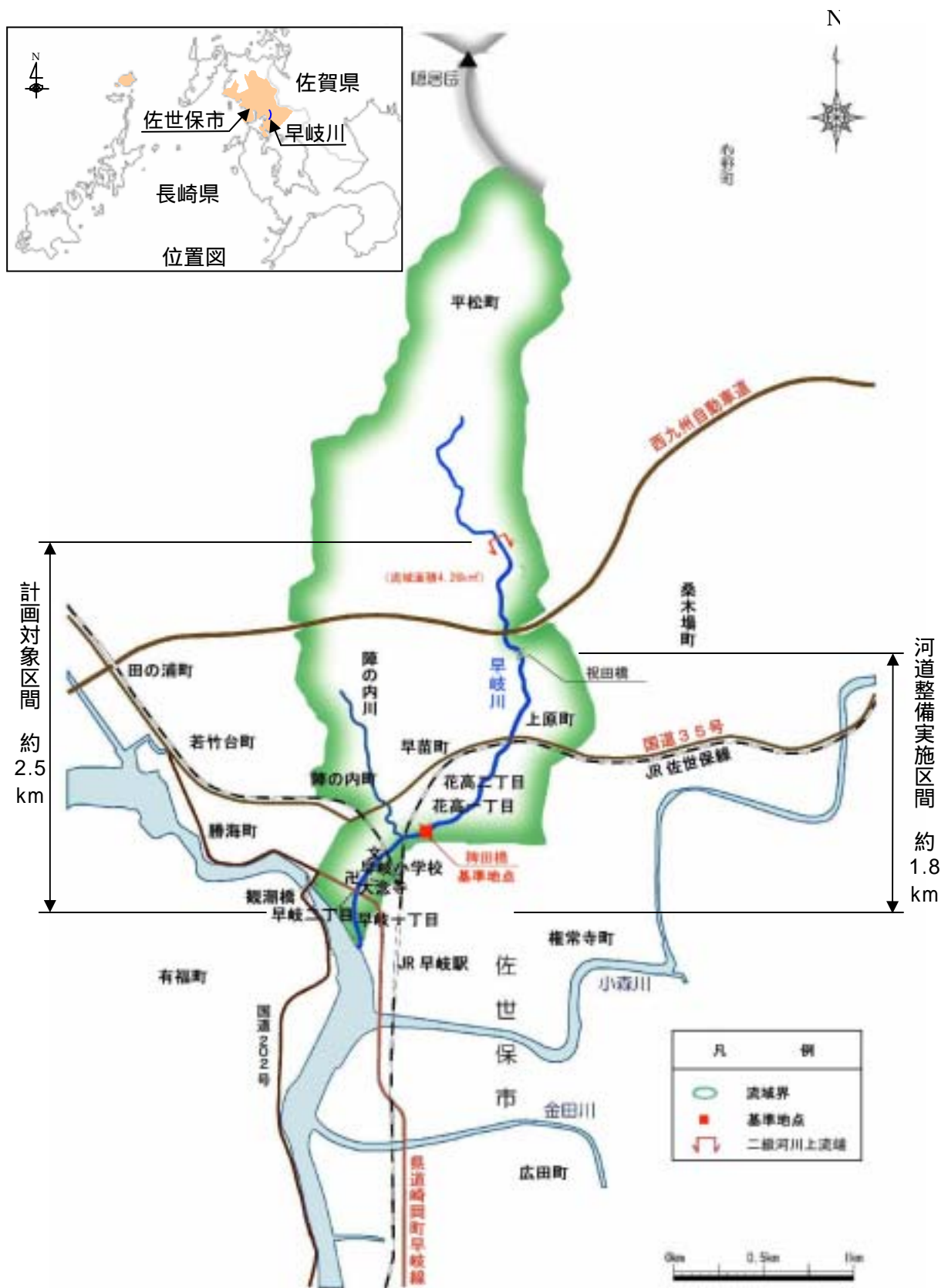


図 6-3 早岐川水系整備計画平面図